

すべてはあなたがたが成長するため

【聖書箇所】 12 章 14 節～13 章 13 節

ベレーシート

(1) コリント教会の開拓と建設の経緯

●今回は、II コリント書の瞑想の最後なので、パウロが第二次伝道旅行において、コリントで教会を開拓し建設したことを振り返ってみたいと思います。テキストはまず使徒の働き 18 章 1～17 節です。

①コリントは商業都市(アテネは学術・文化都市)、いずれも偶像で満ちていた都市でしたが、コリントの場合は福音宣教で多くの結実を生みました。当時のギリシア世界で「コリント化する」という動詞は「姦淫する」の同義語とされていたほどです。

②パウロはコリントで 1 年半の間、腰を据えて神のこばを教えました。それができた理由は何でしょうか。

(2) コリント教会への手紙の執筆事情

●パウロはコリントの教会に対して四つの手紙を書いています。しかし、残っているのは第一と第二の手紙だけです。

(1)「前の手紙」(喪失)⇒(2)「コリント人への手紙第一」⇒(3)「悲しみの訪問」(4)「悲しみの手紙」(喪失)⇒(5)「コリント人への手紙第二」

(1) 第三次伝道旅行において、パウロはそのほとんどをエペソで過ごしましたが、その前に 1 年半の間、腰を据えてコリントで神のこばを教えました(使徒 18:11)。しかしユダヤ人の妨害を受けたためにエペソへ逃れました。エペソに来てすぐにパウロは、コリント教会に手紙を書きました。コリント教会の信者の中に不道德な者、偶像と何らかのかかわりを持つ者がいて、そのような者とははっきりとけじめをつけるべきだという内容の手紙でした(I コリント 5:9)。これが「前の手紙」と呼ばれるものです。

(2) ところが、この手紙は教会の信者に誤解を与えました。そのことがクロエの家の者によってパウロに報告されました。それに加えて、教会内の分裂の様子も報告されました。他にも結婚関係の問題、偶像にささげられた供え物、礼拝の秩序、霊の賜物、復活についての問題などに関する質問がありました。これらの諸質問に答えるために、パウロは「コリント人への手紙第一」を書いたのです。

(3) この手紙に前後して、テモテがマケドニア経由でコリントに派遣されました。しかしテモテの派遣や第一の手紙によっても問題が解決しなかったため、パウロ自身がコリントを直接訪問したのです。これが「悲しみの訪問」と呼ばれています(II コリント 2:1、13:1)。

(4) エペソに帰ったパウロは「悲しみの手紙」を書きます(II コリント 2:4、7:8～9)。そしてテトスがこの手紙をコリントに届けるために遣わされます。

II コリント書の瞑想

(5) その後、パウロはエペソを離れて北上し、トロアスへ行きます(IIコリント2:12)。そこでテトスに会えなかったの
で、パウロは不安を抱きます。しかしマケドニアでテトスに会うことができ、テトスからコリントの教会の人々が悔い
改めたという喜びの報告を受けました(IIコリント2:12,7:5~16)。

(6) テトスの報告を受けたパウロは「コリント人への手紙第二」を書き、再びテトスに託してこれを送りました(IIコリ
ント8:16~24)。この手紙をテトスに託した後、少し間をおいて、パウロはコリントへ行ったのです(使徒20:2)。

1. IIコリント書の終わりの部分

● IIコリント書の12章14節から13章の終わりまで、どこにポイントを当てるべきか悩みます。
ある人は13章の5節と8節に注目します。

【新改訳2017】IIコリント書13章5節

あなたがたは、信仰に生きているかどうか、自分自身を試し、吟味しなさい。それとも、あなたがたは自分自身のこと
を、自分のうちにイエス・キリストがおられることを、自覚していないのですか。あなたがたが不適格な者なら別です
が。

【新改訳2017】IIコリント書13章8節

私たちは、真理に逆らっては何もすることができませんが、真理のためならできます。

●つまり、パウロは三度目のコリント訪問をする前に、コリントの教会の人々に対して「あなたがたは、
信仰に生きているかどうか、自分自身を試し、吟味しなさい」と言って信仰生活の検討を迫っています。
さらに「私たちは、真理に逆らっては何もすることができませんが、真理のためならできます。」と言って、
真理に立つことを勧めています。私たちの信仰とは、生きて私たちの生涯を実際に支配するものであり、
真理に支えられていかなければなりません。ですから、パウロは真理とか信仰というものを、再度、軌道
修正するように要求し、正しい信仰に立って歩むようにと、この第二の手紙を書いてきたのです。

2. パウロの本望

●しかしここでは、コリントの教会の人々に対して自分たちの信仰を吟味するというよりも、**パウロ自身
が何の目的のためにこの手紙を書いているか**、そのことに焦点を当ててみたいと思います。とすれば、12
章19節の「すべてはあなたがたが**成長するため**」と、13章10節の「この権威が私に与えられたのは、
建てるためであって、倒すためではありません」のみことばを選びたいと思います。もう一度、その箇所
を読んでみましょう。

II コリント書の瞑想

【新改訳 2017】II コリント書 12 章 19 節

あなたがたは、私たちがあなたがたに対して自己弁護をしているのだと、前からずっと思っていましたか。私たちは神の御前で、キリストにあって語っているのです。愛する者たち、**すべてはあなたがたが成長するため**なのです。

【新改訳 2017】II コリント書 13 章 10 節

そういうわけで、離れていてこれらを書くのは、私が行ったときに、主が私に授けてくださった権威を用いて、厳しい処置をとらなくてもすむようになるためです。この権威が私に与えられたのは、**建てる**ためであって、倒すためではありません。

(1) 「オイコドメー」という語彙

●12 章 19 節の「成長する」は、新改訳改定第三版では「**築き上げる**」と訳されていました。すでにパウロは I コリント書 14 章 26 節で「それでは、兄弟たち、どうすればよいのでしょうか。・・・そのすべてのことを、**成長に役立つ(=徳を高める)**ためにしなさい。」と言っています。「成長する」「築き上げる」「徳を高める」と訳されたギリシア語は建築用語の「オイコドメー」(οικοδομή)が使われています。この語彙は二つの語彙からなる合成語で、「家」を意味する「オイコス」(οίκος)と「建てる」を意味する「デモー」(δέμω)からなっています。これはパウロの特愛用語です。教会を神の宮として建て上げることを意味する語彙なのです。

Mat 24:1	οικοδομάς	名)対女複	1
Mar 13:1	οικοδομαί.	名)主女複	2
Mar 13:2	οικοδομάς;	名)対女複	2
Rom 14:19	οικοδομησ	名)属女単	3
Eph 2:21	οικοδομη	名)主女単	3
Eph 4:12	οικοδομην	名)対女単	3
Eph 4:16	οικοδομην	名)対女単	3
Eph 4:29	οικοδομην	名)対女単	3
1Co 14:12	οικοδομην	名)対女単	3
1Co 14:26	οικοδομην	名)対女単	3
2Co 5:1	οικοδομην	名)対女単	3
2Co 10:8	οικοδομην	名)対女単	1
2Co 12:19	οικοδομης.	名)属女単	1
2Co 13:10	οικοδομην	名)対女単	1

●この「オイコドメー」という語彙は、パウロが教会を考える上できわめて重要視した言葉です。パウロ書簡では 15 回も使われています。

●マタイ 24 章 1 節、マルコ 13 章 1,2 節では神殿の「建物」の意味ですが、ローマ 14 章 19 節では「成長」、15 章 2 節では「徳を高める」(建徳)の意味で使っています。I コリント 3 章 9 節では「あなたがたは神の建物」、14 章 3, 5, 12, 26 節は「教会の徳を高める」、II コリント 5 章 1 節「神の建物」、10 章 8 節「建て上げ、立てる」、12 章 19 節、13 章 10 節「築き上げる、建て上げ」(新改訳 2017「成長する、建てる」)、エペソ 2 章 21 節「組み合わせられた建物」、4 章 12 節「キリストのからだを建て上げる」、4 章 16 節「建てられる」、4 章 29 節「人の徳を養う」。

●建物はひとりでは建てられません。多くの部分(=兄弟姉妹)が組み合わせられることではじめて建てられます。そこには主にある信頼関係が必要です。お互いの徳を高め、養うことではじめてキリストのからだを建て上げることができるのです。「オイコドメー」は、パウロが教会を建て上げるために、何よりも重視したことばと言えます。

II コリント書の瞑想

●パウロはコリントの教会を建て上げるために、その目的のために、

- (1) 自分に対する不当な評価にもかかわらず、
- (2) 無報酬の奉仕、むしろ、与えてささげ尽くす。
- (3) 神から与えられた権威を用いて、厳しい処置を取らなくてもよいように、前もって勧告している。

【新改訳 2017】 II コリント書 10 章 8 節

あなたがたを倒すためにではなく、**建てるために**主が私たちに与えてくださった権威について、私が多少誇り過ぎることがあっても、恥とはならないでしょう。

【新改訳 2017】 II コリント書 12 章 19 節

あなたがたは、私たちがあなたがたに対して自己弁護をしているのだと、前からずっと思っていましたか。私たちは神の御前で、キリストにあって語っているのです。愛する者たち、すべてはあなたがたが**成長するため**なのです。

【新改訳 2017】 II コリント書 13 章 10 節

そういうわけで、離れていてこれらのことを書いているのは、私が行ったときに、主が私に授けてくださった権威を用いて、厳しい処置をとらなくてもすむようになるためです。この権威が私に与えられたのは、**建てるため**であって、倒すためではありません。

(2) 「オイコドメー」のための知恵

●教会を「建てるため」に、教会が「成長するため」に、この任務のためにパウロは使徒として召されたことを、もう一度自分に言い聞かせつつ、かつコリントの教会の人々に勧めているのが II コリントの手紙です。以下、どうすれば教会が「建て上げられ」「成長し」「互いの徳が高められるのか」を、II コリント書からピックアップしたいと思います。

(1) 【新改訳 2017】 II コリント書 5 章 15 節

キリストはすべての人のために死なれました。それは、生きている人々が、もはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためです。

(2) 【新改訳 2017】 II コリント書 6 章 6~8 節

6 また、純潔と知識、寛容と親切、聖霊と偽りのない愛、

7 真理のことばと神の力により、また左右の手にある義の武器によって、

8 また、ほめられたりそしられたり、悪評を受けたり好評を博したりすることによって、自分を神のしもべとして推薦しているのです。

(3) 【新改訳 2017】 II コリント書 7 章 1 節

愛する者たち。このような約束を与えられているのですから、肉と霊の一切の汚れから自分をきよめ、神を恐れつつ

II コリント書の瞑想

聖さを全うしようではありませんか。

(4) 【新改訳 2017】 II コリント書 9 章 11~13 節

- 11 あなたがたは、あらゆる点で豊かになって、すべてを惜しみなく与えるようになり、それが私たちを通して神への感謝を生み出すのです。
- 12 なぜなら、この奉仕の務めは、聖徒たちの欠乏を満たすだけでなく、神に対する多くの感謝を通してますます豊かになるからです。
- 13 この務めが証拠となって、彼らは、あなたがたがキリストの福音の告白に対して従順であり、自分たちや、すべての人に惜しみなく与えていることを理解して、神をあがめるでしょう。

(5) 【新改訳 2017】 II コリント書 13 章 9 節

私たちは、自分は弱くても、**あなたがたが強ければ喜びます。あなたがたが完全な者になること**(あなたがたの完成のために)、このことも私たちは祈っています。

- コリントの人々が真に霊的に健全になって、成長し、教会が建て上がってくれること、それが使徒パウロの本望なのです。

3. 最後のことばと祝祷

【新改訳 2017】 II コリント書 13 章 11~12 節

- 11 **最後に**兄弟たち、喜びなさい。完全になりなさい。慰めを受けなさい。思いを一つにしなさい。平和を保ちなさい。そうすれば、愛と平和の神はあなたがたとともにいてくださいます。
- 12 聖なる口づけをもって互いにあいさつを交わしなさい。すべての聖徒たちがあなたがたによろしくと言っています。

- 「喜びなさい」「完全になりなさい」「慰めを受けなさい」「思いを一つにしなさい」「平和を保ちなさい」

【新改訳 2017】 II コリント書 13 章 13 節

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように。

- この祝祷は三位一体の神によるきわめて簡潔な祝祷で、多くの教会で用いられています。

ヘー カリス トゥー クリウー イエースー クリストゥー

Ἡ χάρις τοῦ κυρίου Ἰησοῦ Χριστοῦ

カイ ヘー アガペー トゥー セウー

καὶ ἡ ἀγάπη τοῦ θεοῦ

カイ ヘー コイノーニア トゥー ハギウー プニューマトス

καὶ ἡ κοινωνία τοῦ ἁγίου πνεύματος

メタ パントーン ヒュモーン

μετὰ πάντων ὑμῶν.

【新改訳 2017】 II コリ 13:13

主イエス・キリストの恵み、
神の愛、
聖霊の交わりが、
あなたがたすべてとともにありますように。